

次世代の創新を生む、新たなプラットフォーム

事業構造・技術・人財、3つのイノベーションを創出

長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」では、建設事業の枠を超え、多様なパートナーとの共創を通じて、時代を先取りした価値を創造する「スマートイノベーションカンパニー」を、目指すべき企業像として掲げています。その実現に向け事業構造、技術、人財の3つのイノベーションを強力に推進するために整備したのが、「温故創新の森 NOVARE」です。

建設事業の枠を超えるという意味は、社会やお客様が本当に求めているもの、本質的なニーズとともに探求し、そこに当社の技術・アセットを用いて多様な価値を提供し、当社も一緒に成長していこうということです。私たちはこのことを「超建設」と呼んでいます。「超建設」を従業員全員のマインドセットとして捉え、その具現化の場としてここNOVAREが誕生したのです。

事業構造、技術、人財の3つのイノベーション推進のために新組織「NOVARE」を立ち上げました。組織名を施設と同じ名称とし、「創作する、新しくする」部門として活動を行っています。

事業構造においてはNOVARE Hubで社内新規事業立ち上げ推進、社外スタートアップとの協働、ベンチャー出資・支援、社外先進技術の建設事業活用、社内ベンチャー制度運用などを行っています。全員参加型イノベーション活動のロールモデルとして社長直轄で組織された「ビジネスイノベーション室」もここで活動を行い、社会のニーズ探求を行っています。

技術においては、技術研究所にあった大型構造実験棟・材料実験棟・デジタルファブリケーション実験棟をこの拠点に移し、NOVARE Labとして研究開発を行っています。建築の中でも最



副社長執行役員
NOVARE エグゼクティブコンダクター
イノベーション担当

大西 正修

も基本となる構造と材料、そしてこれからのものづくりの先端を行くデジタルファブリケーションを集約することで、技術開発をさらに強力に推進していくことを意図しています。

人財においては、旧渋沢邸や当社220年の歴史資料を展示するNOVARE Archivesを設け歴史から学んでもらいます。そのテーマは「挑戦のシミズ」であり、そこを訪れた人の気づきと熱い心に火をつけたいと思っています。さらに現場でのものづくりをリアルとデジタルで体験できるNOVARE Academyを活用することで、これからのものづくりとこれからの建設業を考えられる人財を育てていきます。



当社220年の歴史から学び、新しさを創るという意味を込めて「温故創新の森 NOVARE」と名付けました。「NOVARE」は、「創作する、新しくする」という意味のラテン語です。「森」は、このNOVAREがイノベーションを生み出す生態系Ecosystemを形成する場となることを期待したものです。

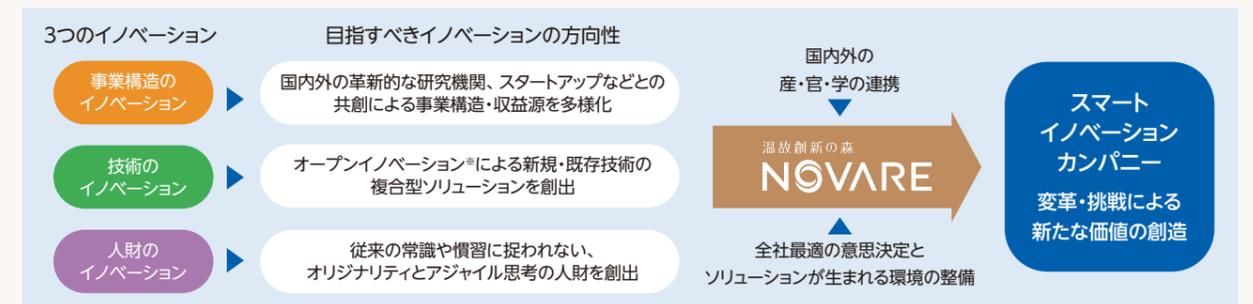


温故創新の森 NOVARE
<https://www.shimz.co.jp/novare/>

NOVAREの共創イノベーション活動

NOVAREを核としたオープンイノベーションの推進

「超建設」の新たなマインドセットにより建設事業の枠を超えて、レジリエント、インクルーシブ、サステナブルな社会の実現を目指す戦略拠点です。



※ 企業が自社内だけでなく、外部の知識や技術も積極的に取り入れ、新しいアイデアや製品、サービスを生み出すための手法や考え方。

スタートアップ共創プログラム

2023年度より、スタートアップと共創する仕組み、アクセラレータープログラム「SHIMZ NEXT」を開始し、世界中のスタートアップから応募を受けて、当社の建設現場などで実証を行っています。



大学連携

2024年3月、当社は早稲田大学と「カーボンニュートラル社会実現に向けた包括連携協定」を締結しました。これはNOVAREを核として、産学連携による最先端技術や知見で、新たな価値創造と社会・産業界の諸問題解決を目的としています。今後も各大学などと産学連携を推進していきます。



2024年早稲田大学と連携協定締結

SHIMZ CVC (スタートアップ投資)

2020年に、10年で100億円の予算規模のCVC (コーポレートベンチャーキャピタル)を立ち上げて、国内外のスタートアップ、VCに投資をしています。



コーポレートベンチャリング制度 (起業家公募プログラム)

2022年度から実施している起業家公募プロジェクト「コーポレートベンチャリング制度」(P.83参照)では、起業を目指す社員のビジネスモデル構築から技術検証、PoC*などの活動を支援しています。

※ Proof of Concept : 概念実証



2024年春に2社起業

NOVARE Hub

情報発信と交流の拠点



NOVARE Hub 内観

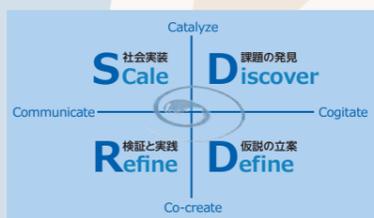
NOVAREの中心機能を果たし、全体をつなぐ幹となる施設です。イノベーションを推進させる情報発信と交流の拠点としての役割を担います。

社会やお客様の本質的なニーズに対するイノベーションの推進として、DDRSというステージを想定しています。まずは課題の発見「Discover」、次に仮説の立案「Define」、そしてそれに対

する検証と実践「Refine」、最後がその社会実装「Scale」。またそれが課題につながるというループです。Hubでは、セキュリティやハードな対応などDDRSに応じた空間を用意し、外部のスタートアップなどとの共創を進めています。

また、イベントホール「NOVARE Forum」や階段状のピッチエリアでは、各種講演会などのほか、新規事業・技術開発のアイデアを持っている従業員や社外の連携先企業、スタートアップなどが気軽にプレゼンテーションを行い、ほかの参加者からフィードバックや応援メッセージをもらえるイベントを頻繁に開催しています。イノベーションマイン

ドの醸成を日常的な活動から図っていきたく考えています。



NOVARE Hubの空間コンセプトDDRS

NOVARE Academy

体験型研修施設ものづくり至誠塾

人財育成と技術の伝承を担う研修施設です。

5体の実物大モックアップがある「体験ゾーン」と、デジタルラーニングゾーン、展示コリドー、研修ブースからなる「考察ゾーン」で構成されています。目指すのは「時代の変化に即した社内外の人財育成」と「ものづくりの心と技の伝承」の場です。①社内の人財育成、②学生向けインターンシップと大学講義の実施、③社外への積極的な情報発信、④研修の外販・見学会の開催を重点課題に捉えて活動しています。



NOVARE Academy 内観

NOVARE Lab

技術研究所潮見ラボ (P.36参照)

建設技術のイノベーション拠点となる施設です。大規模実験スペースを備え、社内外と連携しながら研究開発を行うことで、生産革新を目指します。



NOVARE Lab 内観

構造、材料、ロボティクスの3つの研究エリアとオフィスエリアで構成されています。越中島の技術研究所では独立していた実験棟を一つにまとめて機能性を高め、専門分野の異なる研究員が交流しやすくなったことで、協働による新たなイノベーション創出を目指しています。

社外取締役からのコメント

220年の当社の歴史を尊重しながら新たなイノベーションを起こすという“温故創新”のコンセプトに共感しました。また、この施設を自社にとどまらず異業種にも開放し、建設事業の枠を超えた社会のニーズに応えるための施設と位置付けていることも、素晴らしいと感じています。この画期的な施設は働き方を含め、自由に創造・コミュニケーションできる環境ですので、今後は国内だけでなく海外との協業にも積極的に活用し、より新たな発想が生み出されることを期待しています。様々な外部機関とのコラボレーションを通じ、これまでの建設中心のコミュニティからほかのコミュニティへのアクセスが増えることは、人的資本・社会関連資本の拡大という意味でも有効です。このような取り組みは当社にとってのビジネスチャンスであり、中長期的な収益力向上、さらにはサステナビリティ経営にもつながっていきますので、ぜひ新たに創ったこの施設の存在とその意義を積極的に外部にも発信し、広い世代・業界にも活用され一緒に発展できると良いと思っています。



取締役

田村 真由美

NOVARE Archives

清水建設歴史資料館



NOVARE Archives 内観

当社所有の技術・学術資料、文化的価値の高い所蔵品などの展示・保管施設です。先人たちによる挑戦の歴史に触れ、新たな未来へとつないでいくことを目指します。

当社に蓄積された歴史資料の調査、分析などを行い、社会の変化を織り交ぜながら、当社が新たな価値創造に挑戦するための土台となる「温故創新の基礎資料」を社会に公開していきます。

旧沢沢邸 二代清水喜助の作品



146年の間に、3度の移築をされながらも残された、二代清水喜助の唯一現存する建築作品

です。当社のDNAを間近に感じる、温故創新の核となる施設です。